

競 技 注 意 事 項

1. 本大会は2024年度日本陸上競技連盟競技規則および本大会申し合わせ事項により行う。
- (1)2022年1月1日にWA競技規則TR5の改正と、新たな「競技用靴に関する規程」に基づき、靴底の厚さのチェックは実施しない。ただし、審判長及び競技役員はいつでもシューズチェックすることができ、競技者はその指示に従わなければならない。明らかに規則・規程違反のシューズや疑わしいシューズはチェックや回収の対象になる。競技後にシューズの違反が認められた場合は審判長が「失格」と判断し、記録が取り消される場合がある。(スパイクピンのチェックは招集時に行う。)

靴底の厚さに関する規程(TR5.2)表 ※2024年10月31日まで

種 目	靴底最大の厚さ TR5.5、TR5.2	要 件 ・ 備 考
フィールド競技 (除: 三段跳)	20mm	投てき種目と三段跳を除く跳躍種目に適用する。 全フィールド種目で、靴の前の部分の中心点の靴底の厚さは、踵の中心点の靴底の厚さを超えてはならない。
三段跳	25mm	靴の前の部分の中心点の靴底の厚さは、踵の中心点の靴底の厚さを超えてはならない。
トラック種目 (ハードル種目を含み、800m 未満の種目)	20mm	リレーにおいては、各走者が走る距離に応じて適用する。
トラック種目 (障害物競走を含み、800m 以上の種目)	25mm	リレーにおいては、各走者が走る距離に応じて適用する。 (競技場内で行う競歩競技の靴底の最大の厚さは 40mm)
競技場内で行う競歩	40mm	
道路競技(競走・競歩)	40mm	

なお、本記録会は全フィールド種目で「靴の前の部分の中心点の靴底の厚さは、踵の中心点の靴底の厚さを超えてはならない」の規程を適用除外する。

- (2) イエローカード(以下、YC)について
- ①WA 競技規則 CR18.5 の規定により、TR6、16.5、17.14、17.15.4、25.5、25.19 に違反があった競技者やリレーチームにYCを提示し警告を与える。この場合他種目との合算は無く、種目ごとに累積しリセットする。
 - ②同一種目での2回のYCの提示を受けた競技者は、当該種目を失格とする。ただし、それ以後の他の種目の出場は可能である。YCの提示の累積は、当該種目のみに適用する。
- (3) 招集所及び競技エリア内で携帯電話・スマートフォン・タブレット等の通信機器や録画再生機器等を所持または使用することはできない(TR6.3.2)。

2. 競技場への入場について

競技者・付添等の関係者は指定された出入口(1F正面玄関・2F正面)から入退場すること。入場証は不要とするが各校顧問が入場者の把握に努めることとする。観戦は学校関係者・保護者のみとし、各校との関係について確認を取ることがある。

3. 競技場の使用について

- (1) 横断幕、ノボリの設置は南北の芝スタンド(土盛スタンド)後方およびバックスタンド後方のみとする。
- (2) テントの設置について
 - ①正面の階段スタンドには設置しないこと(学校単位での場所取りは禁止)。
 - ②テントは芝生スタンドに設置し、ロープ等が通路にかからないようにすること。
- (3) 使用した場所は各学校で責任を持って清掃し、ゴミ等は必ず持ち帰ること。
- (4) トラック、フィールドおよび練習走路以外でのスパイクの着用は禁止する。
- (5) 更衣室は10名以内で更衣のみの利用とする。使用時間は1人5分以内とする。また、清潔に使用し私物を置かないこと。

4. 練習について

- (1) 練習中の走る方向は競技会と同じ方向への一方通行とし逆走は禁止。学校・個人のハードル等は持ち込まないこと。また、ゴムチューブ等を使ったスピード練習は禁止する
- (2) 競技場内および公園内でのメディシンボールなどの物を投げる練習は一切認めない。
- (3) 走高跳、走幅跳は準備が整った後、競技役員の指示で練習してもよい。
- (4) 競技開始前のトラックでの練習は次のとおりとする。

競技開始前の競技場での練習について

競技会開始前の競技場（トラック）での練習は、周囲の動きに十分注意して行うこと。
ただし、練習可能時間内であっても競技会準備を優先とし、競技役員の指示に従うこと。
なお、競技場での練習は、1日目・2日目ともに8時30分までとする。
安全のため日傘の使用を禁止する。

※いずれもジョグはレーン外で行うこと。

※1、2レーンは長距離ペース走用

【1日目】

○ホームストレート

3～7レーン = 直線からのスプリント練習

8レーン = 100mYH 9レーン = 110mJH

○バックストレート

3～6レーン = コーナーからのスプリント練習

7～9レーン = リレー練習

※リレーバトン練習は1→2走・3→4走は第2コーナー、

2→3走は第3コーナーで行うこと。

各校で使用したリレーのマーク（テープ）は必ず取り除くこと。

【2日目】

○ホームストレート

3～6レーン = コーナーからのスプリント練習

7～8レーン = 直線からのスプリント練習

9レーン = 110mH

○バックストレート

3～7レーン = コーナーからのスプリント練習

8レーン = 女300mH 9レーン = 男300mH

- (5) メディシンボールなど、物を投げる練習は、競技場内を問わず長居公園内全体で禁止とする。
- (6) 投擲・跳躍競技は準備が整った後、競技役員の指示で練習してもよい。

5. 招集について

○招集所へのスマートフォン・携帯電話等の通信機器の持ち込みは禁止する。

○下記の時間帯に招集を完了できなかった場合は出場できない。

- (1) 招集場所は室内練習場とする。
- (2) 招集は競技開始時刻前の下記時刻で行う。

招集時間	トラック	跳躍	投てき	棒高跳
開始時刻	30分前	50分前	60分前	80分前
完了時刻	20分前	40分前	50分前	70分前

- (3) 競技者は招集開始時刻には招集場所にて上半身競技服装になり、競技者係より点呼を受け、アスリートビブス・腰ナンバーカードおよびスパイクピンの確認を受けてそのまま待機し、招集完了時刻に競技役員の指示により移動すること。

- (4) 招集の代理は認めない。ただし、招集時間帯に競技が行われる可能性がある場合には、**第1種目の招集開始時刻までに「多種目同時出場届」**を招集所へ提出すること。なお、第1種目は招集を受けなければならないが、提出をした第2種目は代理をたてる必要はない。
- (5) リレー種目について
 - ・オーダー用紙は**第1組の招集完了時刻の60分前**までに競技者係へ提出すること。
 - ・リレーの一次招集は4人揃って受けること。ただし、他種目に出場している時は「多種目同時出場届」を提出することで、代理を立てる必要はない。
- (6) やむを得ず欠場する場合は、プログラムにある欠場届を競技者係へ提出すること。
- (7) 点呼後、招集所から競技場内へ移動する場合、競技役員や補助員の指示に従うこと。

6. 競技について

- (1) アスリートビブスは必ず胸部と背部につけること。ただし、跳躍競技は胸部または背部だけでよい。トラック種目では、腰ナンバーカードを招集開始前に招集場所で受けとり、パンツの右側やや後方に付けること。なお、4x400mリレーの第2・第3走者は、次走者の待機順を明確にするため、右側に腰ナンバーカードをつける。
- (2) 3000mWについては、1次招集を受けた後、別ナンバーカードを受け取ること。
- (3) スパイクピンは、本数は11本以内とし、9mm以下の全天候競技場用のものを使用すること。ただし、走高跳・やり投については12mm以下とする。また先端近く(少なくとも長さの半分)で、4mm四方の定規に適合するように作られていなければならない。
- (4) トラック種目はすべてタイムレースとする。
- (5) フィニッシュした競技者は本部前を通らず、バックスタンド前を通過してスタート地点に帰ること。
- (6) 競技エリア内に通信機器(携帯電話等)やビデオ撮影機器(タブレット等)を持ち込んで서는ならない。また、競技エリア内で助力を与えたり受けたりしている競技者は失格の対象となる。フィールド競技中に競技者が、それ以前の試技の映像を、録画再生機器などをスタンドからの手渡しや吊り下げる等により競技エリア内に持ち込むことは認めない。
- (7) 集団での声援(応援)及び不正な助言行動は自粛すること。
- (8) フィールド種目について
 - ① トップ8を行う。
 - ② 跳躍種目はセレクションラインを設ける(但し、走幅跳・三段跳は、1回は全員計測)。
 - 走高跳【男子】1m50 【女子】1m25 走幅跳【男子】5m20 【女子】4m20
 - 三段跳【男子】11m00 【女子】9m00
 - ③ 走幅跳・三段跳は1組(メインスタンド前トラック側)、2組(メインスタンド側)で行う。走高跳は第一曲走路内側で行う。棒高跳は第二曲走路外側の北ピットで行う。
 - ④ バーの上げ方は下記のとおりとする。※走高跳・棒高跳ともに練習の高さは当日現地で決定する。

男 走高跳	現場判断 練 1m50 1m55 1m60 1m65 1m70 1m75 1m80 以降 3cm
女 走高跳	現場判断 練 1m25 1m30 1m35 1m40 1m45 1m50 以降 3cm
男 棒高跳	現場判断 練 2m80 3m00 3m20 3m40 3m60 3m80 4m00 以降 10cm
女 棒高跳	現場判断 練 2m00 以降 10cm

- ⑤ 砲丸投を除き、投てき種目の計測は、ベスト記録のみを計測する。
 - ⑥ 投てき競技や棒高跳びの滑り止めについては、主催者は準備しないので、個人で持参すること。
- (9) フィールド競技の試技制限時間(単独種目)

残っている競技者数	走高跳	棒高跳	その他
4人以上	1分	1分	1分
2~3人	1分30秒	2分	1分
1人	3分	5分	—
連続試技※	2分	3分	2分

※4人以上または各競技者の最初の競技

※走高跳・棒高跳では、残っている競技者が二人以上で、同一の高さの時のみ適用する。

- (10) 競歩種目では、ラスト1周で男子は18分00秒、女子は21分00秒を超える選手は、競歩主任が競技を打ち切る。ハーフパンツでの出場は認めない場合もある。
7. やり以外の競技用具は、競技場備え付けのものを使用する。やりの検定は、競技開始時刻の90分前より30分間、用器具庫前(メインスタンド下南側)で行う。
8. 競技場の使用について
- (1) 横断幕・ノボリの設置は南北の芝スタンド(土盛スタンド)後方およびバックスタンド後方のみとする。
 - (2) テントの設置について
 - ①正面の階段スタンドには設置しないこと(学校単位での場所取りは禁止)。
 - ②テントは芝生スタンドに設置し、ロープ等が通路にかからないようにすること。
 - (3) メインスタンド記者席は座って観戦してもよいが、占有(場所取り)は禁止とする。
 - (4) 使用した場所は各学校で責任を持って清掃し、ゴミ箱を撤去しているので、ゴミはすべて各自持ち帰ること。
 - (5) トラック、フィールドおよび練習走路以外でのスパイクの着用は禁止する。
 - (6) 更衣室は競技者の更衣のみの利用とし、短時間で済ませシャワーは禁止とする。更衣室内ではマスク着用を推奨とし会話は控え、清潔に使用し私物を置かないこと。
9. 免責事項について
- (1) 競技中に生じた事故については、応急処置の他一切の責任を負わない。
 - (2) 競技会に関わる全ての人の感染に対するいかなる責任も負わない。
 - (3) Jアラート警報が発令された場合は、競技を中断する場合がある。
10. その他
- (1) 顧問の受付がない学校の競技者の出場は認めない。
 - (2) プログラムは、配布しないので各校で印刷準備すること。
 - (3) 競技日程はプログラム記載のものを確認すること。HPにUPされているスタートリストの競技開始時間は参考なので、必ず競技日程を確認すること。
 - (4) 記録は、電光掲示板およびWEB ページで確認すること。(記録ボードは設置しない。)
 - (5) 撮影は許可証(正面玄関入口で発行)を必要とし、当該生徒のみの撮影とする。
 - (6) 盗難が発生しているため貴重品等の持ち物の管理は各校・各自で注意すること。
 - (7) 当日はゴミ箱を撤去しているので、ゴミはすべて各自持ち帰ること。
 - (8) プログラム記載の個人情報(氏名、学校名など)大会結果は、大阪陸上競技協会のWEB サイト(大阪高体連陸上競技専門部3・4地区)に記載されるが、本大会関係以外には一切使用しません。